



宮城小通信

郡山市立宮城小学校

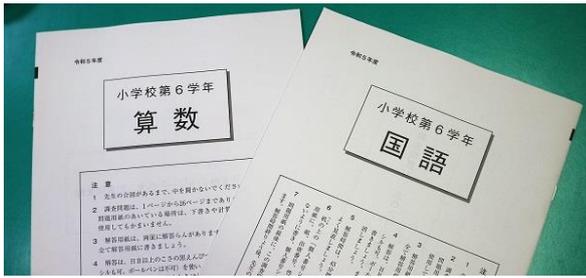
学校便り No.4

令和5年4月19日

文責：校長 伊藤 孝行

全国学力・学習状況調査を行いました。

昨日18日(火)は、令和5年度の全国学力・学習状況調査の実施日で、今年度は全国の小学校6年生約103万人がテストを受けました。



調査問題の量は、国語は22ページで、算数は26ページという大量です。出題傾向としては、国語は複数の文章を読み比べてその内容を聞く問題や、出題条件に応じて、自分の考えを百字程度にまとめるものが多くみられました。

算数は、単純な計算問題ではなく複雑な文章問題を解くものや絵や図、グラフを読み取ったうえで答える問題が多くみられました。

問題文の長文化は、今回だけにとどまらず、高校入試や大学入試にも同じ傾向があります。

子どもたちがこれから問われる学力は、①「長い文章を速く正確に読み取る力」②「複数の文章を読み比べて問題を解く力」です。学習の基本となる「読み取る力」が益々重要になってきます。

みんなで1年生を迎える会を行いました。

今年の1年生は元気あふれる3人です。

2年生から6年生までの子どもたちは、歓迎の気持ちを精一杯表すため「1年生を迎える会」を計画しました。



上級生の歓迎に1年生の子どもたちは大喜びで、

さらに安心して学校生活を送れるようになったものと思います。

MEM校長会議を行いました。

MEMとは、宮城小のM、海老根小のE、宮城中のMからとった、宮城中学区の様々な課題解決のための協力連携チームの事です。



<左から宮城小校長、宮城中校長、海老根小校長>

今年度、第1回の会議は宮城小の校長室で行いました。その話し合いの中で宮城中学区の一歩の課題は「不登校児童生徒とその予備軍」ということがあげられました。

はじめに不登校は、子どもや家庭に問題があるから起こるものではありません。残念なことです。悪い条件が重なればどの子にも起こり得るものもあります。また、早期対応、早期解決を図らなければ長期化するという面もあります。

宮城中学校区3校に共通するのは「少人数・小規模学校」ということです。一般論ですが、小規模校の課題としては、人間関係が固定化されやすいこと、また、逆に子どもの成長に伴い固定化された人間関係が崩れたときに不安定な人間関係になるということが言えます。

そこで、今年度は、小中連携・小小連携を強化しながら、小中学校の教職員全体で宮城地区の子どもたちを育てていくことができないかということをお話ししました。また、お子さんに関することであれば、小学校、中学校の校種に関わらずご相談いただきたいと思います。

早速、今年度の取り組みとして、中学校の先生が小学校の授業を参観に来ることや、6年生の子どもたちが中学校で陸上の指導を受けることなどが決まりました。